

分野：⑪産業（電気）

身近な環境ウォッチング「電気の旅」

環境アドバイザー

谷合 宜明

対象 新座市立新開小学校5年2クラス（62人）

所要時間



45分（計90分）

場所 5年生教室

実施時期

令和2年10月27日

概要

電気のはじめから終わりまでに触れる

プログラムの
ねらい東電の発電割合は、火力が80%を占めていて、火力発電所で作られた電気は使用するとCO₂を発生することにつながることを理解する。

プログラムの内容

1 調べ学習にしていた発電の種類を全員から吸い上げる（15分）

児童たちからは、火力・水力・原子力・風力・太陽光などが出された

2 学校のあるここ新座市へ供給される電気は東京電力の発電所で作られていること（20分）

- ・東京電力の発電所で作る電気の80%が火力発電であること
- ・火力発電のエネルギーは化石燃料を使っているのでCO₂が出ること
- ・発電所から学校までの道のりに多くの変電所があり電気が旅をしながら電圧が変わっていくことを知った。

3 電気を消費する家電の種類について全員に問いかけながら黒板に板書させた（10分）

4 少しでも節約してエコライフを充実させようと申し合わせた。

受講者の反応

発電機はエネルギーを使ってまわすので全部CO₂を出すとばかり思っていたのに、火力発電だけだと知って皆さん驚いていました。

環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要

